

都道府県・ 指定都市番号	59	都道府県・ 指定都市名	京都市	研究課題番号・校種名	3 (4) 小学校
				領域名	E S D
研究課題	<b>学校全体で取り組む課題</b> (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	きょうとしりつどどしょうがっこう 京都市立百々小学校 (617人)				
所在地 (電話番号)	京都市山科区西野山百々町 173 - 1		(075-593-3250)		
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=110204">http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=110204</a>				
研究のキーワード	E S Dカレンダー ， 付きたい資質・能力 ， 教科学習				
研究結果のポイント	<input type="radio"/> E S Dの視点を意識した指導案の作成 <input type="radio"/> 資質・能力による関連を意識したE S Dカレンダーの作成 <input type="radio"/> E S D・SDG sの視点をいかした身近な行動				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

学ぶこと大好き！

—自ら考え，ともに高め合い，よりよい社会を創ろうとする子どもの育成を目指して—

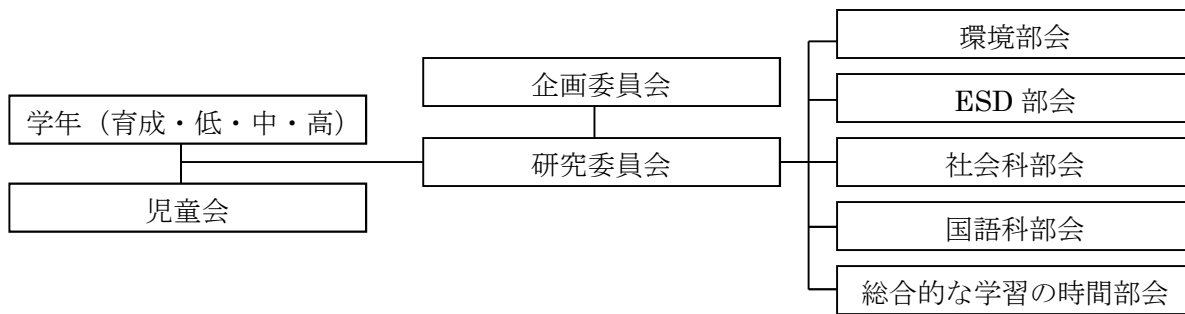
### (2) 研究主題設定の理由

本校は，社会科・国語科を研究教科として取り組んでいる。社会科では問題解決的な学習を進めるにあたって，資料の読み取り，資料から読み取ったことをもとに考え，判断する力を付けたい。そのためには，低学年から語彙力をつけること，自分の考えを書いたり伝えたりすること，話し合いをしながら他者の考えを聞くことが大切であると考え取り組んできた。

また，本校の校区には，大石神社・山科神社，多くの田畑があり，多くの生き物が共生する自然豊かな地域である。また，校内には芝生・ビオトープと自然に触れる場所があふれている。さらには，清水焼団地，元仏具・扇子団地もあり，古くから伝統産業のさかんな地域でもある。このような環境で，ESD の視点を組み込んだ体験型学習や，教科横断的な学習過程を通して伝統産業や環境問題について学び，地域の素晴らしさに気付かせたい。

これまでの研究や校区の特色を生かしてE S Dの視点を組み込んだ学習過程を計画することによって，身近なところに自ら進んで目を向ける力がつくであろう。そして，課題を見出し，自分とつながりのある周りの人達と共に解決策を考えようとする態度が養われるであろうと考える。さらに自分の考えを的確な言葉を選び発信するとともに，自分の考えに責任をもって行動することにより，地域の人・もの・こと・社会・自然との繋がり・関わりに一層関心をもち，考える力を養っていきたいと考え，この主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成29年度	4月～5月 ○今年度の校内研究方針の共通理解 6月～2月 ○校内研究授業にESDの視点を取り入れ、授業改善を図る。 ○ESDの視点を大切にした環境整備 ○アンケートの実施 (児童2回目) 2月～3月 ○一年次のまとめと次年度の方向性確認
平成30年度	4月～5月 ○今年度の校内研究方針の共通理解 6月～11月 ○ESDカレンダーの修正・追加 ○校内研究授業ESDの視点を取り入れ、授業改善を図る。 ○ESDの視点を大切にした環境整備 ○アンケートの実施 (児童2回目) 12月 ○研究発表会 1月～3月 ○二年次のまとめと次年度の方向性の確認

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①各教科・領域のねらいとESDの視点で身に付けさせたい資質・能力をより明確にして、指導案に位置付ける。
- ②今ある地域人材リストを活用するとともに、さらに新たな地域教材の発掘につとめ教材化する。
- ③内容的な関連だけではなく、資質・能力による関連を意識したESDカレンダーの作成を試みる。
- ④ESDの視点で身に付けさせたい資質・能力を軸にして中学校との連携についても検討する。

## (2) 具体的な研究活動

- ①各教科・領域のねらいとE S Dの視点で身に付けさせたい資質・能力をより明確にして、指導案に位置付ける。

指導案に「E S Dの視点について」の項を立て、E S Dの視点から単元・教材の分析を行い、特に重視する能力・態度について重みづけを☆印で表した。重みづけをした能力・態度については、具体的に付けたい力を明確にし、本時のどの場面でその力をつけるのか指導案に明記した。事後研究会においては、付けたい力が付いたか、また、よりよい方法はないかという協議の視点を明確にして議論することができた。

- ②今ある地域人材リストを活用するとともに、さらに新たな地域教材の発掘につとめ教材化する。

昨年度までの地域人材リストの活用・修正・追加と、新たな地域教材の教材化を図った。地域教材の教材化については、特に、教科・領域の中で人から学び・人に伝える活動を大切にしたい。地域の人材を活用して、米作り（田植え～もちつき）の体験により農家の仕事を学んだり、清水焼など伝統文化体験を学んだりすることができた。また、芝生・ビオトープなどの校内環境整備をPTA・学校運営協議会と共に行なった。

- ③内容的な関連だけではなく、資質・能力による関連を意識したE S Dカレンダーの作成を試みる。

昨年のE S Dカレンダーを資質・能力による関連を意識して見直しを図った。また、教材のつながり、人のつながり、能力・態度のつながりを意識した教科横断的な教育活動に取り組んだ。さらに、「E S Dの視点に立った学習指導で重視する4つの能力・3つの態度」で色分けするとともに、SDGsの17項目を各単元に当てはまるものを選んだ。その際、教職員研修として、教職員自身ができることも考えた。

- ④E S Dの視点で身に付けさせたい資質・能力を軸にして中学校との連携についても検討する  
小中9年間の目指す子どもの姿について話し合い、小中一貫教育構想図を作成した。各校で授業実践を公開し、子どもの姿をもとに、事後研修会を持った。

## (3) P D C Aサイクルへの取組について

学校教育をE S Dの視点から見直すことで、子どもたちの学びに変化があったことが見て取れる。授業がよくわかるという項目に「あてはまる」と答えた児童はこの2年間で8.4ポイント増加した。そこには、授業に主体的に取り組む児童の増加が考えられ、このアンケートでも13.9ポイントの増加が数字に表れている。その根底には「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」と感じる児童が増えたことがある。また、授業への姿勢のみならず、自分と違った考え方を受け入れたり、物事を多面的にみたりする力も身につけることができた。

	あてはまる(%)				少し、あてはまる(%)				あまり、あてはまらない(%)				あてはまらない(%)			
	H29 5月	H29 9月	H30 3月	H30 7月	H29 5月	H29 9月	H30 3月	H30 7月	H29 5月	H29 9月	H30 3月	H30 7月	H29 5月	H29 9月	H30 3月	H30 7月
学校が楽しい	58.6	67.8	64.3	69.0	30.5	22.4	24.8	20.2	9.4	7.7	7.3	6.9	1.5	2.1	3.5	3.8
みんなで何かをするのは楽しい	66.2	76.1	74.0	77.4	28.4	17.6	21.5	16.2	4.9	5.9	3.3	5.0	0.5	0.5	1.2	1.4
授業に主体的に(すすんで)と取り組んでいる	38.2	52.0	46.3	52.1	39.7	35.0	40.7	34.8	18.1	10.6	10.2	10.2	3.9	2.4	2.8	2.9
授業がよくわかる	55.9	62.9	58.4	64.3	29.4	28.4	31.4	28.3	14.2	6.3	7.3	6.7	0.5	2.4	2.8	0.7
他の人の意見を大事にして自分の意見を考えている	34.3	45.3	39.7	46.4	49	40.6	48.7	42.1	14.7	12.0	10.2	8.3	2	2.1	1.4	3.1
身の回りの出来事をいろいろな立場から考えている	30.4	38.1	43.0	40.0	44.1	40.7	39.2	41.2	22.5	16.2	14.7	13.6	2.9	5.0	3.1	5.2
地域のことに進んで参加している	26	41.0	34.3	41.2	37.3	31.1	31.4	30.5	24.5	18.5	21.5	18.6	12.3	9.4	12.8	9.8
社会がどのようになると良いかいろいろと考えている	23.5	34.8	33.6	41.2	33.8	34.8	37.8	28.1	22.5	18.1	15.8	20.2	20.1	12.2	12.8	10.5

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 低学年では特にコミュニケーション力を育てることがその他の能力・態度を育てる上で基盤となると感じた。低学年では2人組で話す機会を多く持つことで、伝える力・聞く力が徐々に身につく、他者と協力する態度も身についてくることを感じた。
- 低学年の話し合い活動において、聞き手を育てることが必要。共感的・肯定的に答えること（考えの共有）ができるようにし、さらに質問やアドバイスによって多面的・総合的に考える力が育つと考えられるが、まだまだ育ち切れていない。質問の質を高める方策について考えていきたい。
- 社会科において、学習問題の確認→予想→資料から一人学び→全体学び→検証→まとめ・振り返りという学習過程が構築できた。4つの能力と3つの態度をどの学習過程の中で重視して指導していけばよいのか考えることが出来た。
- ESDカレンダーを作成することで学習指導において重視する能力・態度を意識することができた。教職員自身も研修でSDGsについて学んだことで具体的な目標を立てたり、身近なこととして考えたりすることが出来た。
- ESDの視点で教材研究することで、より深く教材分析ができることを感じた。しかし、既習事項や他教科とのつながりや地域の人材とのつながりを単元計画に位置付けることについてまだまだ改善の余地がある。子どもたちの振り返りの中でESDの視点について指導者の意図が伝わっているか評価していくことで改善点が明らかになると考えている。
- ESDの視点で教育活動を見直していくことについて、学校運営協議会でも理解を得た。環境整備や授業への協力についても積極的に協力していただいている。
- 子どもたちの主体的に学ぶ姿勢が授業の中で見られ、アンケートの結果からも数値が上がっている。教材のつながり、人のつながり、能力・態度のつながりを意識して授業改善を試みるのが有効であると感じた。
- アンケート結果から地域行事への参加については、地蔵盆や祭りが開催される季節にポイントが高くなっていると考えられる。自分たちも地域に暮らす一員であることを感じられるようにする取り組みが必要である。今後も教科学習を大切にしつつ、ESDの視点で学校教育をすすめることで、学校・地域・家庭が一体となって児童とともにより良い社会について考えを深めていきたい。
- 小中9年間のESDカレンダーを作成することについては、ESDカレンダーを作成することで学年内での教科横断的なつながりと教科を通して9年間のつながりを意識していくことができるよう、小中一貫教育構想を充実させていきたい。

### 4 今後の取組

ESDカレンダーの見直しを継続しながら、内容のつながりとともに、学習指導において重視する能力・態度をより育てることができるよう、各教科の目標とESDの視点を意識した授業改善を継続していく。特にESDの視点の資質・能力については、学習活動に具体的に位置づけ、グループ活動などの学習形態の工夫や話型の提示など対話的な学びを重視して取り組んでいく。また、地域人材の活用を今後とも取り入れていくことで、体験的な学びを通して地域の人の知識・技を学び、生き方を学び、地域社会の大切さを学ぶことにつなげていく。さらに、以上の取り組みを小中一貫教育構想に反映させていくことで、9年間の取組へと進めていきたい。